

概要版

災害時における防災情報収集等に係る市民意識調査 調査結果報告書

令和7年1月



調査概要

■ 調査の目的

災害時における防災情報の取得手段等に係る市民の認識や行動についてのデータを収集及び分析し、市の取組に活用するため実施するもの。

■ 概要

- ① 調査期間 : 令和6年7月17日(水)～令和6年8月13日(火)
- ② 調査対象者 : 鹿児島市の住民基本台帳から無作為抽出した5,000人
- ③ 有効回答数(有効回答率) : 2,272人(45.4%)
- ④ 調査方法 : 書面又はインターネットによる回答

■ 調査機関

- 調査主体 : 鹿児島市 危機管理局 危機管理課
- 調査協力(受託業者) : 株式会社サーベイリサーチセンター 南九州事務所

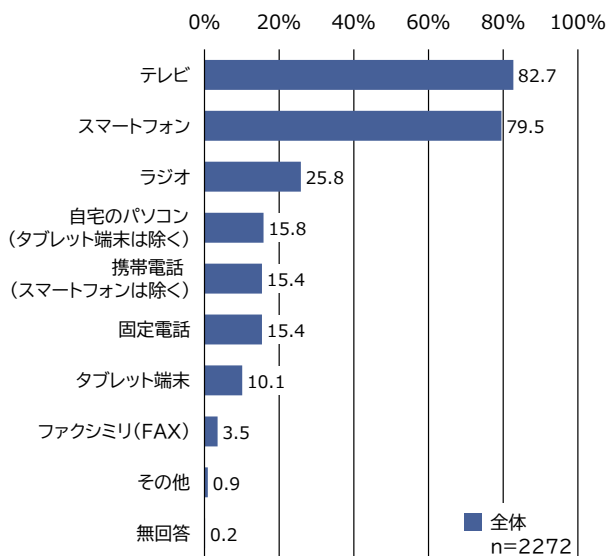
調査結果

1. 防災情報の入手方法等について

■ よく利用する情報通信機器

「テレビ」が82.7%と最も割合が高く、次いで「スマートフォン」が79.5%、「ラジオ」が25.8%となっている。

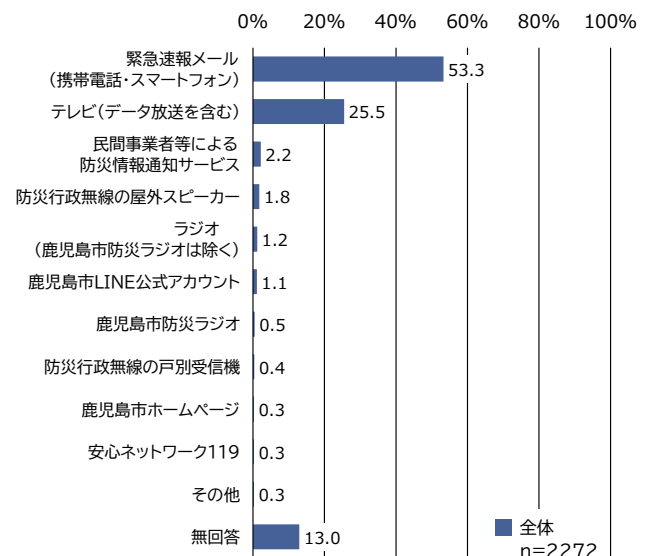
「スマートフォン」と「携帯電話」のいずれかまたは両方を利用する割合は、全体で93.0%となっている。



■ 防災情報を最初に知る手段

「緊急速報メール(携帯電話・スマートフォン)」が53.3%と最も割合が高く、次いで「テレビ(データ放送を含む)」が25.5%となっている。

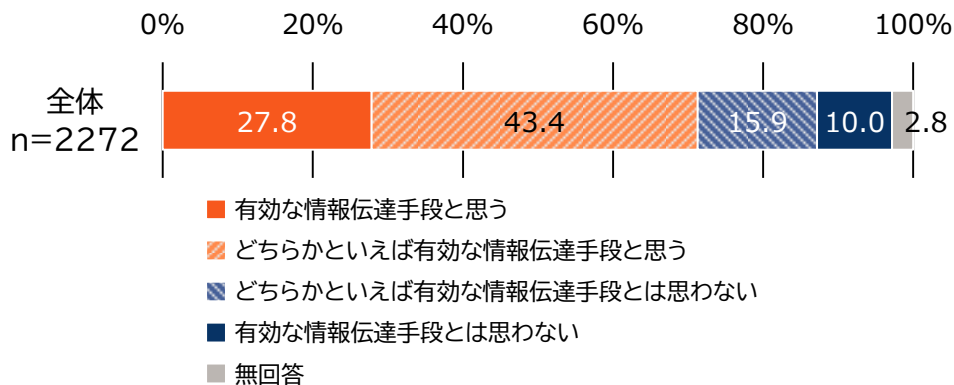
一方、「防災行政無線の屋外スピーカー」を最初に知る手段とする割合は1.8%となっている。



■ 一斉架電システムの有効性

「(どちらかといえば)有効だと思う」との回答が約7割となっており、「(どちらかといえば)有効とは思わない」より多かった。

※一斉架電システムとは、あらかじめ登録された電話番号に対し避難情報等を音声で届けるサービスのことであり、本市では未導入である。

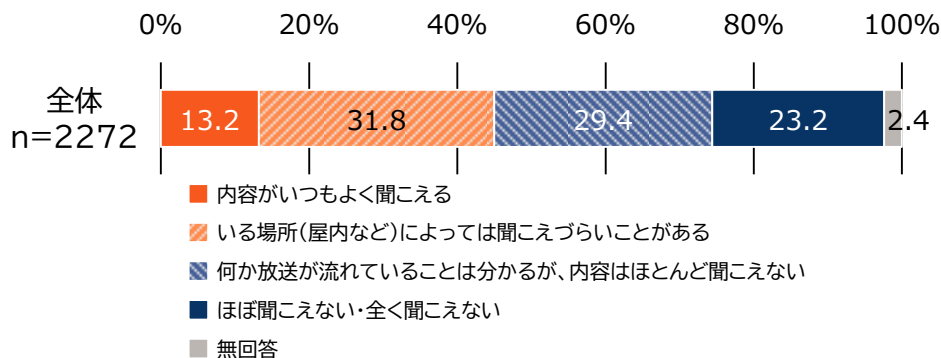


2. 防災行政無線の屋外スピーカーについて



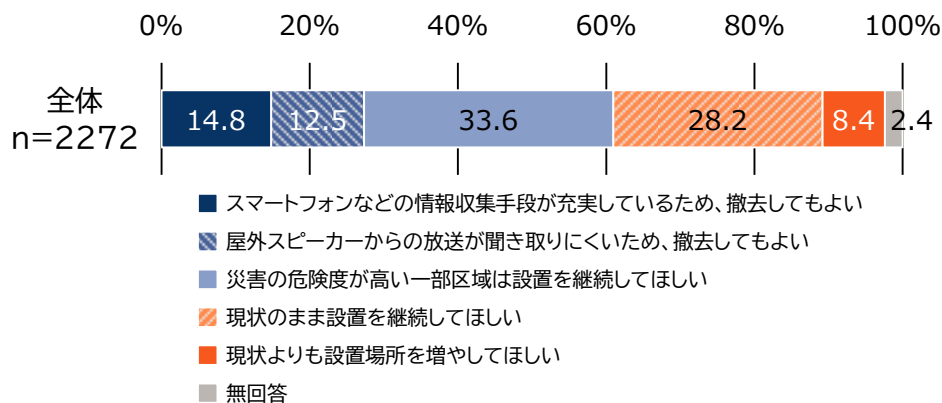
■ 大雨や台風の際における放送の聞こえ具合

「いる場所(屋内など)によっては聞こえづらいことがある」が31.8%と最も割合が高く、次いで「何か放送が流れていることは分かるが、内容はほとんど聞こえない」が29.4%、「ほぼ聞こえない・全く聞こえない」が23.2%となっている。



■ 防災行政無線の屋外スピーカー設置の必要性

「スマートフォンなどの情報収集手段が充実しているため、撤去してもよい」と「屋外スピーカーからの放送が聞き取りにくいいため、撤去してもよい」を合わせた『撤去してもよい』が27.3%、「災害の危険度が高い一部区域は設置を継続してほしい」が33.6%、「現状のまま設置を継続してほしい」が28.2%、「現状よりも設置場所を増やしてほしい」が8.4%となっている。



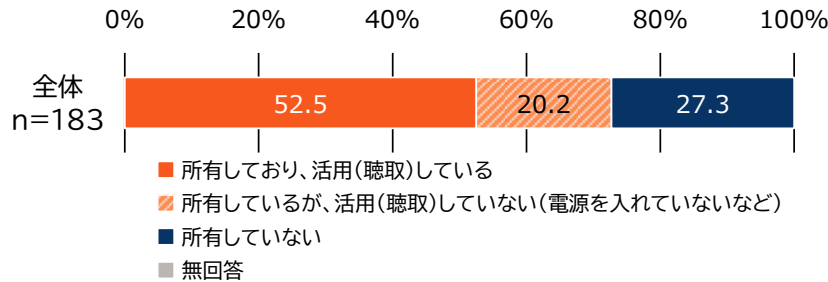
3. 戸別受信機について



※合併5町域等及び磯、花倉、三船、竜ヶ水、平松にお住まいの方のみが回答対象

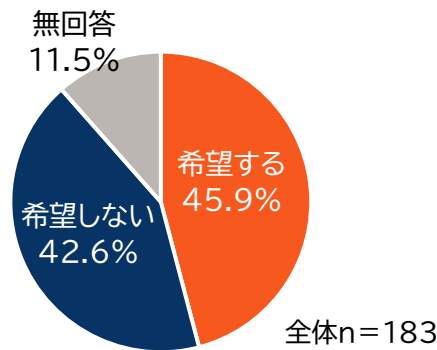
■ 戸別受信機の活用状況

「所有しており、活用(聴取)している」が52.5%と最も割合が高く、次いで「所有していない」が27.3%、「所有しているが、活用(聴取)していない(電源を入れていないなど)」が20.2%となっている。



■ 戸別受信機入れ替え時の受領希望

「希望する」が45.9%、「希望しない」が42.6%となっている。

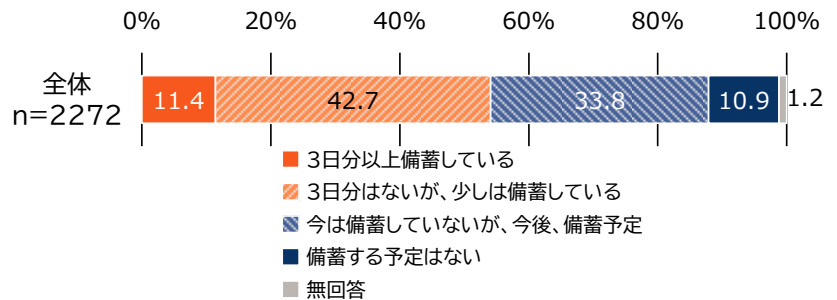


4. 備蓄・非常持出品について



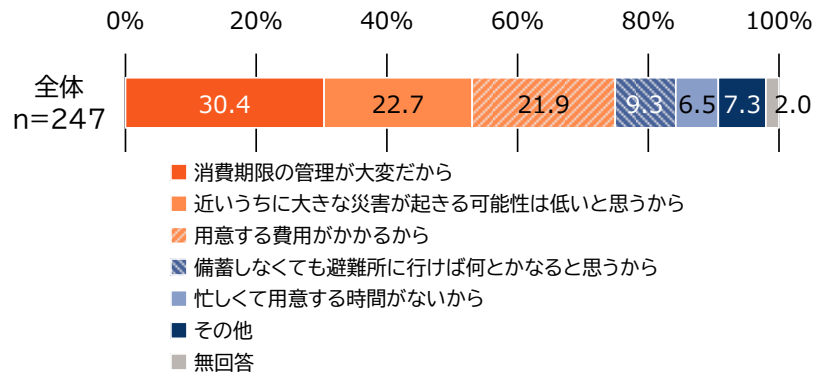
■ 備蓄状況

「3日分はないが、少しは備蓄している」が42.7%と最も割合が高く、次いで「今は備蓄していないが、今後、備蓄予定」が33.8%、「3日以上備蓄している」が11.4%となっている。



■ 備蓄しない理由

「消費期限の管理が大変だから」が30.4%と最も割合が高く、次いで「近いうちに大きな災害が起きる可能性は低いと思うから」が22.7%、「用意する費用がかかるから」が21.9%となっている。

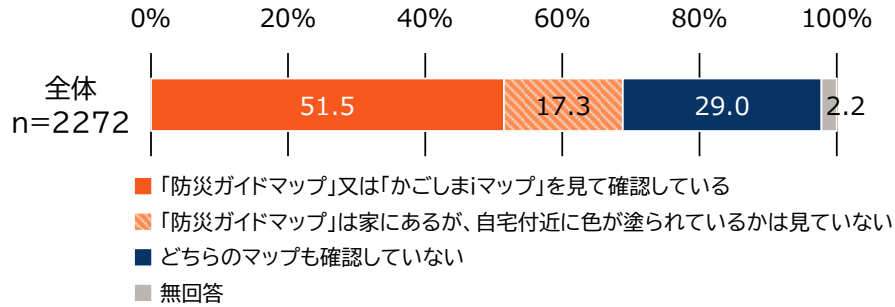


5. 災害時の避難について



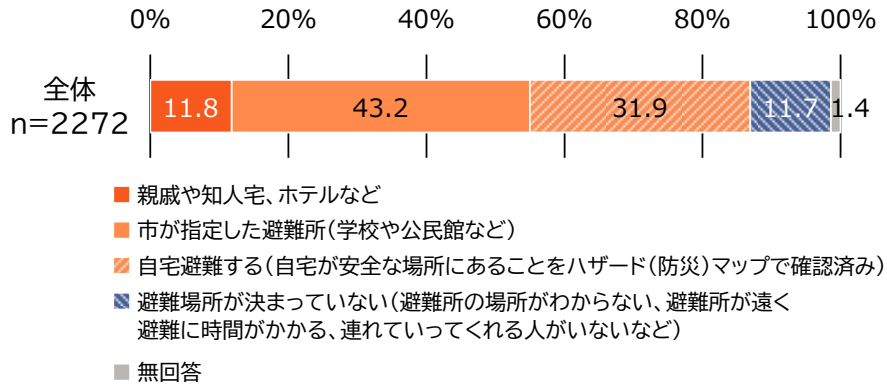
■ ハザードマップの確認

「防災ガイドマップ」又は「かごしまマップ」を見て確認している」が51.5%と最も割合が高く、次いで「どちらのマップも確認していない」が29.0%、「防災ガイドマップ」は家にあるが、自宅付近に色が塗られているかは見ていない」が17.3%となっている。



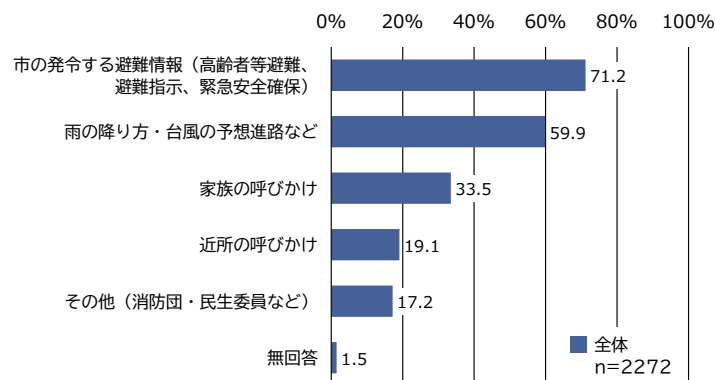
■ 災害時の避難場所

「市が指定した避難所(学校や公民館など)」が43.2%と最も割合が高く、次いで「自宅避難する(自宅が安全な場所にあることをハザード(防災)マップで確認済み)」が31.9%、「親戚や知人宅、ホテルなど」が11.8%となっている。



■ 避難判断のきっかけ

「市の発令する避難情報(高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保)」が71.2%と最も割合が高く、次いで「雨の降り方・台風の予想進路など」が59.9%、「家族の呼びかけ」が33.5%となっている。



【概要版】災害時における防災情報収集等に係る市民意識調査 調査結果報告書

令和7年1月 発行

調査主体: 鹿児島市 危機管理局 危機管理課

〒892-8677 鹿児島市山下町11番1号

TEL 099-216-1213

調査協力: 株式会社サーベイリサーチセンター南九州事務所

〒860-0804 熊本市中央区辛島町8番23号

TEL 096-324-5370